

真宗佛光寺派
大阪教区・
別院だより

大悲

第5号
平成24年(2012年)
4月1日 発行



佛光寺大阪別院本尊・“落涙”の阿弥陀如来像

昨年十二月に全日本仏教会は『いのち』を脅かす原子力発電への依存を減らし、(中略)誰かの犠牲の上に成り立つ豊かさを願うのではなく、個人の幸福が人類の福祉と調和する道を選ばなければなりません」との宣言を発表しました。

福島第一原子力発電所事故では六万三千人の方が県外避難を余儀なくされました。放射能汚染は多面的な危険性をほらみ、原発の廃炉には数十年を要するといわれています。

「想定外」という言葉に、人間の知恵・科学技術に対する過信と、その限界を思い知らされました。私たちは今まで原発の「安全神話」を妄信し、原発の「危険性」についてあまりにも無知で無関心だったと反省せざるをえません。

仏さまの救いのお目あては一切衆生であり、「大悲」の光は仏の智慧となり私を目覚めさせます。今私たちは、エネルギーのあり方について、真摯に向き合う時なのです。

(長田 譲)

と う ひ が ん 到 彼 岸



～大阪別院
彼岸会法話より～

光福寺 玉出宗順

「不思議」のよびかけ

この度は「不思議」ということをお話ししたいと思います。

不思議と聞きますと、なにか理性では考えられないような現象などのことと思いますが、そういうことをいっているわけではありません。

自分にとって当たり前だったことが本当は当たり前ではなかった。さらに

は私がこうして生きているという深い喜び、深い感謝を喚び覚ますはたらくを不思議というのです。

しかし頭の中ではその通りだなと思うのですが、実際自分の身を通して考えるとそのようにただけていません。

思いを超えた世界

私は子どもが誕生するまでただ元気に生まれてきてくれればそれだけでいいと思っていました。

ところが今では「何々したら駄目」とか「早くしなさい」と子どもに怒ってばかりです。元気に生まれてきてくれればと思っていたことをすっかり忘れていきます。いつの間にかいのちを授かったことさえも当たり前にしています。

子どものいのちだけではありません。自分のいのちさえも自分の力で今まで

生きてきたのだと思い込み、当たり前にしています。

しかし私が今ここにすることは自分の思いを超え、両親をはじめ誰一人として欠けることなく脈々と受け継がれてきたいのちに生かされているのです。

親鸞聖人は「仏法不思議」というお言葉を通して自分の思いを超えた大きな世界に遭遇されました。

自分の思いを中心に生きてきた私が、自分の思いを超えた世界に触れたとき、「いのち」とはもっと大きな世界に支えられ、生かされているのだと気づかされました。

(平成23年3月24日勤修の大阪別院彼岸会法話より)



如^{によ}是^ぜ我^が聞^{もん}

学校カウンセラーの現場から

京都教区・高林庵 大下 勝師



平成23年9月16日開催の法
友会研修会で、大下勝師のお
話を聞かせていただきました。

学校カウンセラーは、学校
における不登校やいじめなど
の問題に対して、その予防、
対策などに取り組みます。そ
してカウンセラーは子ども、
そして保護者や先生と向き合
い、一緒にあってその問題へ
の対応を考えます。そこでは
相手の話を「きく」というこ
とが一番大切になってくると
いうことでした。

「きく」ということには、自
分の立場できく〈聞〉と相手
の立場できく〈聴〉がありま
すが、カウンセリングでは相
手の話をしっかり聴き、その
中で一緒にあって考えていく
「傾聴^{けいちょう}」ということが基本にな
ります。それは相手の話を聴
き、相手の気持ちを理解し、
相手のありのままを受けとめ
ていくことを目指します。そ
のことを通して問題に悩む本
人は自分の思いを整理し、自
分の本当の姿に気づき、さら

に支えてくれている周りの存
在に気づき、人や社会との関
係を受けとめることができる
ようになっていくそうです。

家族や学校など、人との関
係の中で生まれた問題である
からこそ、人との関係の中で
解決していくのだなと聞かせ
ていただきました。

ご縁を生きる中で

「傾聴」は仏教、真宗に通じ
るところがあるということであ

「自分の常識や価値観こそが正
しいと思う〈自力のこころ〉
があると、ここから相手を
受けとめることが出来ない」
と大下師。聞き手も話し手も
五濁を生きる凡夫です。共に
そのような〈ご縁〉を生きる
関係の中で、自分という存在
の危うさに気づかされながら、
なお相手の話を聴いていくこ
との大切さ、そして難しさを
学校カウンセラーの現場を通
して感じているそうです。

私も相手も共に阿弥陀さま
のお慈悲の中に生かされてい
るいのちであるという関係の
中で、相手の話に耳を傾けて
いくことの大切さを教えてい
ただきました。

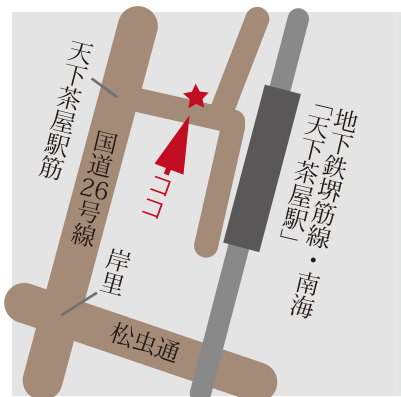
(門川崇志 記)

大阪探検

天下茶屋あられ総本店



おかきを焼く中島満男さん



大阪市西成区花園南 2-7-6
電話 /Fax 06-6658-3041
定休日：なし
地下鉄堺筋線・南海「天下茶屋駅」
下車徒歩 1 分

西成区は昔、手焼きのおかき屋が多く、50

なかしまみつお

60軒ほどあったそうです。店主の中島満男さんは「この辺りの地下水の水質が良かったからだ」といわれています。私は西成区が大阪市内でも雨の少ない地域だからだとも思っています。おかきは、いったん天日で乾かしますからね」と、今では4軒ほどになってしまった炭火焼きの手焼きおかきにこだわり続けています。

原料になる餅米は、店主の郷里の滋賀県東近江市（旧蒲生町）でとれた近江米。「蒲生町の土は、粘り気があつて質がいいんです。遠くから来た米ですし、『よう遠くから来てくれたなあ』といいながら、大切に作っています

」と中島さんは言います。

今では、マスコミからの取材も多く、跡を継ぐ2代目の英雄さんは、デパートの催し企画で、手焼きおかきの実演をされることもよくあります。

平成17年に満男さんの妻・敏子さんがお亡くなりになり、私の実家（長徳寺）の紹介でお参りさせていただいています。中島さんは「同じ蒲生町木村出身、まさに同郷のよしみ、ほんまにありがたい縁です。住職さんにお参りいただく日をいつも楽しみにしています」とあられを焼く手を休め、取材にご協力いただきました。

（長田 譲）

ごえんさんを訪ねて

大善院（京都） 佐々木正祥 住職



大善院（右）と、おてらハウス（左）



ご住職が描かれた
ご本人の似顔絵

佐々木さんは、約670年の歴史を持つ大善院第24代目のご住職をされています。

福祉関係の職員を10年前に退職され、龍谷大学や大谷大学の聴講

生を経て、現在

は多方面に活躍

されています。

本山の行事にも

精力的に参加さ

れています。

また「まず浄

土教は明るくな

らないといけな

い」というお考

えのもと、『文

化時報』やご自

坊の『ホームページ』に「コママ

ングを掲載するというユニークな

仏教伝道や、『仏説阿弥陀経』に説

かれているお浄土の世界観を映像

にし、現代文で朗読しながらその



「河童の手のミイラ」
(上)と「ツチノコ」
(下)

映像を流す布教活動など、ひと工夫されています。

ご住職が以前、「河童の手のミイラ」「ツチノコ」を紙粘土で製作さ

れたことから、関西の人気番組「よ

ういドン！」に出演され「となり

の人間国宝さん」に選ばれました。

現在はおてらハウスに寺宝として

展示中。

本山の山門より徒歩1分。一度

おてらハウスにも足を運んでみて

はいかがでしょう。

おてらハウス

喫茶・ギャラリーおてらハウスとして平成17年にオープン。現在

は不定休の為、お電話でご確認下さい。

お寺の敷居を低くするという目的で「門徒さま以外にもお気軽に来て欲しい」とご住職はおっしゃいます。

ます。

ギャラリーでは、プロのアーテ

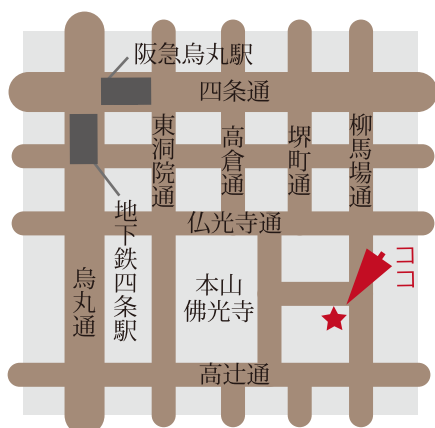
ィストの作品が楽しめ、個展や様々

なイベントも企画されています。

個展・イベント等はホームページ

に掲示しています。

（寿栄松正顕）



京都市下京区新開町 397-9

電話 /Fax 075-351-4883

<http://www.DAIZENIN.com>

『大悲』誌へのご協賛のお願い

大阪教区・別院だより『大悲』

は皆様からのご協賛によって発行させていただいております。

ご協賛の方法は次の3通りです。

① 広告

企業・団体・寺院の広告を誌面に掲載させていただきま
す（下記参照）。

一区画（55mm×40mm）、掲載
一回につき5千円です。

② 懇志

企業・団体・寺院・個人の
皆様からの懇志金（金額はい
くらでもかまいません）をお
受けいたします。なお、懇志
を頂戴しました皆様のご芳名
を誌面に掲載させていただき

ます。

③ 購入

『大悲』を頒布させていただきます。
一部につき30円頂戴
いたします。発行日（次号発
行は7月1日の予定）の1ヶ
月前までにご注文ください。

※ ※ ※

今号は『大悲』編集者の7
名が、それぞれの所属寺院の
広告を下記に掲載いたしまし
た。

『大悲』発行の意義をご理解
いただき、何卒、ご協賛賜り
ますようお願い申し上げます。
なお、入金につきましては
下記の郵便振替口座を、広告
原稿の送付は下記アドレスを
ご利用ください。

西光寺

住職：寿栄松正信
〒532-0035
大阪市淀川区三津屋南1-7-4
tel 06-6301-4040
fax 06-6301-4040

高照寺

住職：隅谷俊紀
〒591-8011
堺市北区南花田町1644
tel 072-252-2122
fax 072-252-2230

正念寺

住職：長田 譲
〒546-0003
大阪市東住吉区今川2-8-5
tel 06-6714-3109
fax 06-6714-3125

常光寺

住職：佐々木太一
〒532-0002
大阪市淀川区東三国1-32-4
tel 06-6391-5319
fax 06-6391-5316

浄方寺

住職：門川徹真
〒530-0016
大阪市北区中崎2-3-26
tel 06-6371-9040
fax 06-6371-9070

光福寺

住職：玉出恭順
〒557-0045
大阪市西成区玉出西2-2-18
tel 06-6651-1544
fax 06-6651-1548

妙圓寺

住職：葦名 彰
〒569-1131
高槻市郡家本町41-5
tel 072-685-1554
fax 072-685-1554



40mm

55mm

郵便振替口座
口座番号：00990-4-305218
加入者名：大悲の会
広告原稿の送付先
jushoku@koshoji.net（隅谷まで）

だいひ 絵日記

- 1月13日（金）大阪教区・新年互礼会
1月24日（火）さつき会研修会（ご和讃に聞く・講師：隅谷俊紀 師）
1月25日（水）大悲の会編集会議（発足会・第5号内容検討）
2月21日（火）大悲の会編集会議（第5号読み合わせ）
2月24日（金）法友会研修会（帰三宝偈に聞く・講師：廣澤晃隆 師） ①
2月27日（月）佛青研修会（伝統文化にふれる・吉本新喜劇観劇）
3月10日（土）大悲の会編集会議（第5号読み合わせ） ②
3月12日（火）さつき会研修会（ご和讃に聞く・講師：隅谷俊紀 師）
3月17日（土）大阪別院彼岸会（布教：中井賢隆 輪番）
3月20日（火・祝）大阪別院彼岸会（布教：長田 譲 師）
3月23日（金）大阪別院彼岸会（布教：中井賢隆 輪番）
3月31日（土）大悲の会編集会議（第5号発送作業・第6号内容検討）



①ご講師より、「『帰三宝偈』は、決して死者に手向ける内容ではない。親族・知友の死を目の当たりにして、今まさに尊いのちに目覚めよと、衆生に仏法を勧める偈である」と教えていただきました。

（葦名 彰）



②長い射程を経て、ひとつの文章、ひとつの段落、ひとつのコラムができて上がっていく。あっそうか。こういう細かい作業がていねいに丹念に積み重ねられた仕事、そんな仕事を他者から贈られて私たちは毎日生きているんだ。

（佐々木太一）

大阪教区・別院 行事予定

大阪教区

5月18日（金）午後5時 総会

法友会（住職会）

5月18日（金）午後5時 総会

さつき会（坊守会）

5月22日（火）午前11時 総会

佛青（青年会）

4月30日（月）午後6時 総会

大悲の会（『大悲』編集会議）

4月26日（木）午後6時 編集会議

5月14日（月）午後6時 編集会議

6月25日（月）午後6時 編集会議



佛光寺大阪別院

編集後記

★第5号よりリニューアルいたしました大阪教区・別院だより、その名も『大悲』。これは昨年発行いたしました大阪別院記念誌『乗大悲願船』から名前をいただきました。現在、下記の7名が「大悲の会」という名称のもと、『大悲』の編集にあたっています。また、ともに編集会議に参

加していただく「大悲の会」会員を募集しています。年齢は問いませんので、入会ご希望の方は会員まで。★『大悲』誌面について、皆様からのご意見、ご感想をお聞かせください。よりよい誌面作りに反映させていただきたいと思います。

（隅谷俊紀）

大阪教区別院だより『大悲』 第5号 平成24年(2012年)4月1日発行（発行部数900部）
発行：大悲の会…長田 譲(会長)、隅谷俊紀(副会長)、寿栄松正顕(会計)、玉出宗順(会計)、
門川崇志(監事)、佐々木太一、葦名 彰
事務所：佛光寺大阪別院内 〒558-0011 大阪市住吉区荻田 6-11-24 電話 06-6691-1362
（郵便振替口座 口座番号：00990-4-305218 加入者名：大悲の会）